

近年の日本経済は不況と叫ばれています。当社でもここ数年で売上の30%が減少し、苦戦を強いられています。そこで、2年前から以下の5つの不況対策に取り組んでいます。

不況対策

1. 全員で営業する
2. 新製品の開発に全力を尽くす
3. 原価を徹底的に引き下げる
4. 高い生産性を維持する
5. 良好な人間関係を築く

私は現在、(株)日本航空のCEOの稲盛和夫先生が塾長を務める「盛和塾」に入っており、講演で稲盛先生が『不況を次の発展の飛躍台に』というテーマで話していた内容をそのまま当社

の不況対策として取り入れています。

継続こそ会社の美德

この不況対策以外にも、当社では昭和56年から5S活動を、昭和61年から改善活動を1日も欠かさずに全社で継続してきました。この活動は、大変地道な活動ではありますが、将来の成果に繋がる活動となっています。

例えば、社内を正すための決め事に対して、当社では貼り紙は一切しません。私自身が貼り紙をすることが嫌いなこともありますが、「紙で貼り出してあるから」「言われたから」直したのでは意味がありません。何かを改善したいのであれば、その根本原因を追究しなければ改善はされないと思います。そのためには、全社

員が改善内容を理解し、お互いに注意し合い、それを続けることが大事なのではないでしょうか。

また、私は社長として、これを社内で誰よりも率先して行わなければならないと考えています。もちろん社長だけがやっているとはいけませんが、「社長が頑張るから、社員が頑張る」「社員が頑張るから、社長が頑張る」というお互いが刺激し合える環境であることが大事ではないかと思っています。

会社の想いを高める

人は誰でも努力することで成長し、変わることが出来ます。過去、私自身も年代によって様々なことがあり、迷い悩むことも多くありました。いろんな葛藤があって、今日に至りました。今50代という人生の半分を終え、残りの人生をどう生きるか考えるようになり、心の底から「仕事一筋」と思えるようになりました。

この経営者の「想い(=モチベーション)」を社員にも共有し、高めていかなければなりません。特に業績が悪い場合は、この「想い」が下がりがちですが、それでも未来に夢や希望を持ち、仕事に使命感を持っていれば、「想い」は上がり続けるものです。経営者は社員の「想い」を上げ続けるよう、少しずつでも工夫をし

ていく必要があるのではないのでしょうか。例えば、人はどんな小さなことでも、気にかけてもらえることはうれしいものです。「元気か?最近はどうだ?」といった、ちょっとしたことでも声をかけたり、メールを送って気にかけることが大事なのではないのでしょうか。

企業は人の集まり 人の力が発展に繋がる

現在の不況を乗り切るには、「社員の育成」が一つテーマになると考えています。当社では毎月、主任・係長以上の50名の社員で社内勉強会を行っており、これには私も一緒に勉強しています。

また、「社員(=人)を育てる」ためには、まず企業のトップである社長自身が一番勉強しなければなりません。人(=社員)は役職者についていくのではなく、人格者のところに集まるものです。私自身、常々経営者として、そのような人物でありたいと考えています。

幸せな人生とは、物心の両方が満たされていることで「幸せ」と言えるのではないのでしょうか。当社では、会社の経営においても、ここに重点を置いています。人を大切にする「利他の心」を持ち、心を高める経営をしていかなければならないと考えています。経営者は社員を



預かる立場です。人を育て、会社を發展させ、その利益をいかに社会や社員に還元出来るかを真剣に考えていく必要があると思います。また、社員をより深く思い、その家族や周りの人々に至るまで幸せを願って取り組み、考えられる人物でありたいとも考えています。これらの観点で、経営者として正しいことをしていきたいと考えています。

不況はチャンス

近年、グローバル化の概念が全く変わってしまうのではないかと思うほど、そのスピードは速くなってきています。そして、日々このような状態をどう活かし、乗り越えていくかを考えていかなければいけない厳しい時代に直面したと思います。

また、どんな人にも試練がありますが、これを試練と思うか、チャンスと思うかによって、企業の力は違ってきます。これを

チャンスと思い、社員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

産学連携の想い

富山県立大学では、毎年様々な取り組みが行われています。しかし、まだまだ関わっている企業は、一部なのではないでしょうか。私達企業が、これまで以上に研究協力会の取り組みを利用し、活発に活動をしていくためには、より大学に敷居を低くしていただきたいと思っています。もっと頻りに接触の機会を設けられるよう、大・中・小でテーマを設け、気軽に話をする場を設けていただければと思います。接触の場が増えれば、逆に企業が大学の役に立てるかもしれません。「ちょっと相談しに行こう!」というような気軽に立ち寄れる取り組みをしていただければと思います。



住所: 〒939-0142 富山県高岡市福岡町土屋705 (本社)

TEL: (0766)-64-5667 (代表)

事業内容: 各種金型設計・製作、各種専用機械設計・製作、各種切断機及び
油圧加工機的设计・製作、アルミ形材製品製造、エクステリア製品の販売

URL: <http://www.ms-masuoka.co.jp/index.html>